

鬼と将軍と白馬と観音様

金縄山(かなづなさん)実相院観音寺には、その名の由来といわれる「鬼が城」というおとぎ話が伝わっている。

むかしむかし、毘耶王(ひやおう)と呼ばれる傍若無人な大鬼と子分たちが角間の谷の「鬼が城」に住みつき、あたりの村々を手当たり次第に荒らしては村人を苦しめていた。ある日、帝の命で陸奥の賊を退治した坂上田村麻呂大将が村を通りかかり、村の窮状を知って鬼退治に向かうが絶壁にそびえる鬼が城にはさすがに手が出せない。そこで信仰厚い京の清水寺の観音様に祈ると、立派な白馬が目の前に現れた。飛ぶように鬼が城に駆け上がる白馬に乗って鬼を退治した田村麻呂は、立派なお寺の小高い山に観音様を祀った。それが実相院の「馬頭観音」であり、鉄の鎖で縛られた毘耶王の亡骸が埋められた場所に置かれた大きな石と松の大き木が、実相院の池の端にある「鬼石」と「鬼松」。そして、実相院は金縄(鬼を縛った鉄の鎖)山実相院観音寺と呼ばれるようになったといわれている。



観音堂



鬼石

石仏と道祖神

真田地域には多くの石仏と道祖神が現存している。

時代を超え、人々の様々な願いをこめて、形式も多彩に昭和の現代までもつくられたもの。

その表情や姿にはなぜか心躍る何かがある。点在するそれらを巡ってみるのも楽しい。



ご案内 温泉、体験、特産品など

歴史館

真田氏歴史館

時代を駆け抜けた真田氏ゆかりの品々がある資料館。真田三代の歴史が分かる人気のスポット。

長野県上田市真田町本原2984-1
TEL:0268-72-4344
AM9:00～PM4:00
(企画展開催期間中は～PM5:00)
火曜日、年末年始定休
(火曜日祝日の場合翌日定休)
大人:200円 小中学生:100円



観光案内所・体験・お土産

ゆきむら夢工房

真田エリアの観光案内所。そば打ちなど食の加工体験などもでき、電動アシスト自転車の無料貸出もしている。

長野県上田市真田町長6090-1
TEL:0268-72-2204
AM8:30～PM5:15
年末年始定休



野菜直売所

新鮮市真田

地元真田地域の野菜や山菜、きのこ、果物のほか地元ならではの加工品も販売している直売所。

長野県上田市真田町長6109-1
TEL:0268-72-2030
5月～11月 AM8:00～PM4:00
12月～4月 AM9:00～PM2:00
年末年始定休



温泉

真田温泉(ふれあいさなだ館)

天然温泉(アルカリ性単純温泉)、お食事、温泉プールなども完備した旅の疲れを癒す日帰り温泉施設です。

長野県上田市真田町長7369-1
TEL:0268-72-2500
AM10:00～PM9:30(受付PM9:00まで)
火曜日定休(祝日の場合は翌日)
大人:500円 小中学生:250円



地藏温泉(十福の湯)

県下最大級の庭園露天で人気の日帰り温泉、またお食事もメニューが充実している。本格石窯焼きビザも人気。

長野県上田市真田町傍陽9097-70
TEL:0268-75-3855
AM10:00～PM10:00(受付PM9:30まで)
(12月1日～3月中旬は閉館が1時間遅くなります)
不定休
平日・大人:600円(土日祝:650円) 小学生:300円



千古温泉

神川溪谷にある日帰り温泉。上流には真田十勇士の霧隠才蔵が忍者修行をしたといわれる千古の滝がある。

長野県上田市真田町長6395
TEL:0268-72-2253
AM10:00～PM8:00
毎月20日定休(土・日曜日の場合は営業)
大人:500円 小中学生:250円



角間温泉(岩屋館)

真田の里の隠し湯として名高い角間温泉にある大自然に囲まれた静かな一軒宿。(茶褐色の炭酸泉)

長野県上田市真田町長2868
TEL:0268-72-2323



お食事処

札幌ラーメンとさん娘真田店

TEL:0268-72-2225

AM11:00～PM2:00 水曜日定休

車

TEL:090-5513-2891

昼/AM11:30～PM1:30 夜/要予約

お食事処真田亭(ふれあい真田館内 食事のみできます)

TEL:0268-72-2500

AM11:00～PM8:00 休館日:火曜日(祝日の場合は翌日)

http://www.sanadanosato.or.jp/onsen_shokudou.html

カフェ&ギャラリー-SAAN(さあん)

TEL:0268-72-8100

AM11:00～PM5:00 日曜定休日

日替わりランチ/AM11:00～PM2:00

http://www.azarean.jp/Group1/Contents/22_cafegallerysaan.aspx

和風レストランわか

TEL:0268-72-4321

手打ちうどん江戸屋

TEL:0268-75-3525

AM10:00～PM4:00 定休日:木曜日

水曜日夜のみ営業/PM5:00～PM8:00

掲載内容は平成25年10月31日付の情報に基づいております。

渋沢温泉

薪で沸かし、毎日湯をはりかえている日帰り温泉。

長野県上田市真田町長1317-6

TEL:0268-72-3224

AM10:00～PM8:00

毎週水曜日定休

大人:500円 小学生:250円 乳幼児:無料



問い合わせ:上田市真田地域自治センター産業観光課
長野県上田市真田町長7178-1
TEL:0268-72-4330 FAX:0268-72-8133
Email:ssangyo@city.ueda.nagano.jp

真田三代に出逢うMAP

傍陽コース



①・⑮曲尾バス停



②常光寺跡(じょうこうじあと)

天照山常光寺跡(てんしょうざんじょうこうじあと)。傍陽字早稲田にあり、真言宗京都智積院来、本尊千手観音、天喜五年(1057年)明算(高野山の中院流祖)の草創、柳列を開山とす。大熊友秀が永禄九年(1566年)に父備前守常光のために再興して常光寺と改む。大熊氏は真田氏の家臣であったと伝わる。



③根小屋城跡(ねこやじょうあと)

本郭は高城と呼ばれ平坦部は方約20m、北西側の低土居内は11m四方の方形をなしている。山の背をうまく利用して、いくつかの郭がつくられており、低い山城であるが、全体が岩石で、守りに良く攻めるにむずかしい。自然をうまく生かした代表的な山城である。



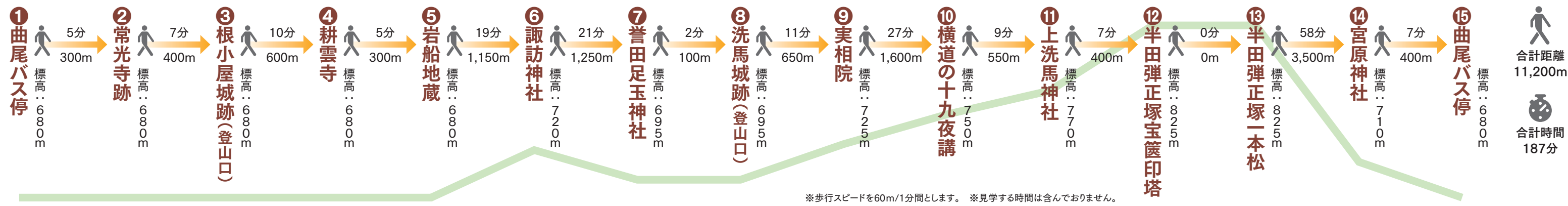
④耕雲寺(こううんじ)

種月山耕雲寺(しゅげつさんこううんじ)。宝篋印塔(ほうきょういんとう)と五輪塔によりなる供養塔郡は当地地籍より発掘されたものである。この中の宝篋印塔の一基は、文亀(ぶんき)四年(1504年)と銘記されている。耕雲寺は、葛尾城主(かつらおじょうしゅ)・村上義清(むらかみよしきよ)が開基したと伝えられている。村上氏は、応仁元年(1467年)の洗馬城(せばじょう)攻めに始まり、天文二十年(1551年)碓石城合戦へと当地に関係深い戦歴を持ち、当寺の宝篋印塔と五輪塔はこれらに係る供養のための塔ではないだろうか。



⑤岩船地蔵

仏教では釈迦入滅後、弥勒菩薩(みろくぼさつ)が現れるまでの無仏時代、現世にあって六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天人)に迷う人々や、死後の世界において迷う亡者を救う菩薩が地蔵である。この地蔵様は、船形の台座の上に建てられ「岩船地蔵」と呼ばれている。享保7年(1722年)、地蔵念仏供養塔、軽井澤村中と刻まれ、当時の村人の願いが伝わってくる。この地蔵様は、人の忌み嫌う鬼門(東北)の方向を向き、何かを払いのけて下さっているようだ。



⑥諏訪神社

この諏訪神社は、町内の諏訪系の社としては、唯一御柱祭が行われている。祭りは、中組の一地区の堤集落で行われ、その御柱も一本であるが、諏訪大社の7年に一度の御柱に準じた形態をとり4月に行われている。柱の見立て→山出し→里引き→柱立の順に行う。柱の長さは三十三尺(9.999m 一尺=30.3cm)が基本で、これに七・五・三寸(一寸=3.03cm)のどれかを加えることになっている。



⑦誉田足玉神社(ほんだたるたまじんじや)

正八幡宮と呼ばれていたが、1864年に誉田足玉神社と改称された。祭神は誉田別命、息長足姫命、玉依姫命の3柱である。拝殿の裏側に踏み面の狭い石段が続き、上部に覆屋に囲まれた本殿が建っている。本殿は一間社の流造で、柱や脇障子などに多くの彫刻が施されている。これは江戸時代の伝統的な手法とされており、柱や長押に地紋彫を施し、波・鯉・菊・麒麟などが彫られて



⑧洗馬城跡(せばじょうあと)

かつて城の山、または古城とも呼ばれていた。南西に伸びた尾根の先端には誉田足玉神社があり、東北に延びた尾根には金縄山(きんじょうざん)と峰山に続き、その東北麓には名利実相院がある。本郭は東西9m、南北39mで、西側と北側に土塁跡が認められる。本郭の背後には、深さ13m幅30mの大きな堀切がある。本城は、城郭部分の遺構がかなり良く残されており、戦国期には根小屋城とともに、地藏峠側を押さえるための山城として重要な役割を担ったものと考えられる。



⑨実相院(じっそういん)

金縄山実相院観音寺(きんじょうざんじっそういんかんのんじ)。実相院は行基の創建と伝える天台宗の古寺で、本尊を馬頭観音とする。本堂は、間口19.2メートル、奥行き16.3メートルの規模の寄棟造、鉄板葺(もと茅葺)の建物である。本堂西上の小高い丘にある観音堂も見事だが、そこに通ずる道は秋には紅葉のトンネルとなり、通る者を魅了する。また、坂上田村麻呂の民話の舞台となったり、俳人小林一茶が詠んだ句があるなど見所が多い。



⑩横道の十九夜講

横道三区(上横道区・中横道区・下横道区)が合同で行っている十九夜講がある。ムラの辻にある如意輪観音を祀る講で、この像を十九夜様とも呼んでいる。各区の16名の主婦が当番にあたる。祭日は3月19日である。この日の当番は、十九夜様へ幟を立てたり、公民館に祭壇を作り掛け軸をかけ、団子を作りお供えをしたり豆煎り持ち寄った煮物などもお供えする。



⑭宮原神社

勧請年暦は不明。社は東西26m、南北20mの広さがある。真田家や仙石家から除地されたとの記録が残っていることから代々この地を治めていた領主から大事にされていたことが推測される。



⑮半田弾正塚一本松

弾正塚を守るかのように、赤松の大樹が一本石塔婆の背後に立っている。高さ約20m、目通り周囲4.25m、枝張り東西27m、南北約20m、樹齢約500年と推定される。塔の創建時に植えたものと思われるが、長い年月に見事な傘状に成長した老松である。残念なことに平成26年に西側の枝が折れてしまった。



⑫半田弾正塚宝篋印塔

三重式石造宝篋印塔で基壇に陰刻で「応永十年(西暦1403年)の記念銘がある。相輪は失われているが珍しい三重式の大作で、室町時代中期の古塔として貴重である。総高155cm(相輪をのぞく)



⑪上洗馬神社(かみせばじんじや)

享禄4年(1531年)諏訪神社の分霊を勧請(かんじょう)して祀り、明治3年に上洗馬神社と改称した。以前存在した社叢(しゃそう 神社の森のこと)は櫻(けやき)の巨木を主体としたもので社前に大木が4本あり、最大の木は目通り周囲8.2m、樹高約30mに達し、樹齢は推定800年と推定されていたが現在はその面影を残すのみである。



経塚(きょうづか)

経塚は、願い事があって経文を埋めた塚と言われ、一石五輪塔(いっせきごりんとう)正保四年(1647年)、千部供養塔など建てられている珍しい塚である。通常見られる五輪塔と異なり、一石に空・風・火・水・地を表す梵字(ぼんじ)が刻まれている。当経塚は、根小屋城の麓(ふもと)にあり、碓石・米山城へ通じる金剛寺峠道(松代街道)がある。

